

環境教育に関するアンケート調査結果

平成 19 年 3 月

横浜市環境創造局

目 次

1 . 調査の設計	1
2 . 調査の結果	2
1) 市民	2
2) 事業者	8
3) 市民活動団体	15
3 . まとめ	19

1. 調査の設計

「横浜市環境教育アクションプラン」(平成18年3月)に基づく取組について、初年度となる平成18年度現在の取組状況のふりかえりを行うための基礎調査として、市民、事業者、市民活動団体を対象に、アンケート調査を行った。

それぞれの調査の設計は、以下のとおりとした。

表 各主体のアンケート調査の設計

	市民	事業者	市民活動団体
対象	・20歳以上の市民 (住民基本台帳ならびに外国人登録から無作為抽出)	・横浜市環境保全協議会会員企業 ・横浜市景況・経営動向調査対象企業(1,000社から無作為抽出)	・環境創造局環境活動事業課と情報交換を行っている団体
対象数	3,000人	・保全協会員企業 230社 ・景況調査企業 270社 計 500社	144団体
設問数	42問(全14項目)	47問(全14項目)	29問(全10項目)
主な質問事項	[属性] ・年齢 ・職業 [質問] ・環境問題への関心・行動 ・3つの重点行動(地球温暖化防止、ごみ・リサイクル、水辺や緑の保全)についての関心と取組の状況 ・横浜市の環境情報提供 ・横浜市の環境関連施策充実度 ・所属組織での取組状況 ・他の主体との連携状況	[属性] ・業種 ・従業員数 [質問] ・環境配慮活動の位置付け ・環境配慮活動への取組状況 ・3つの重点行動(地球温暖化防止、ごみ・リサイクル、水辺や緑の保全)についての関心と取組の状況 ・横浜市の環境関連施策の充実度 ・他の主体との連携状況 ・国際協力・交流	[属性] ・活動分野(ジャンル) [質問] ・環境問題全般への関心と行動 ・環境行動への取組状況 ・3つの重点行動(地球温暖化防止、ごみ・リサイクル、水辺や緑の保全)についての関心と取組の状況 ・横浜市の関連施策の充実度 ・他の主体との連携状況 ・国際協力・交流
実施時期	平成19年1月23日(火) ～2月9日(金)	平成19年2月9日(金) ～2月21日(水)	平成19年2月9日(金) ～2月21日(水)
回収率	30.6% (913件/2979件)	54.9% (273件/497件)	42.7% (61件/143件)

注) 回収率は、郵便不達分を除いた実数で算出している。

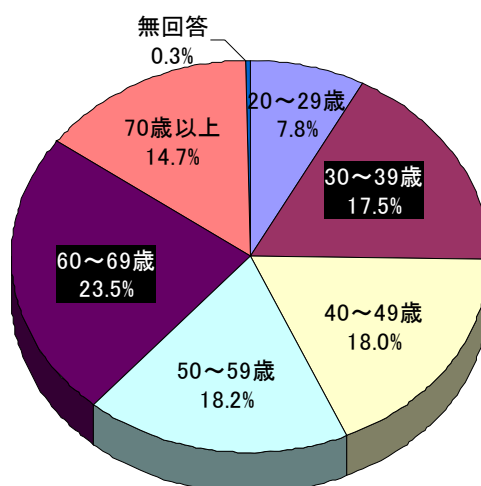
2 . 調査の結果

1) 市民

回答者の属性

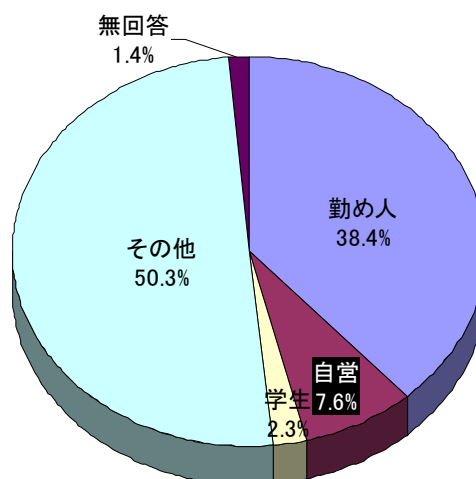
(1) あなたの年齢は？

・60歳以上が40%近くを占めている。一方、20代の割合が低い。



(2) あなたの職業は？

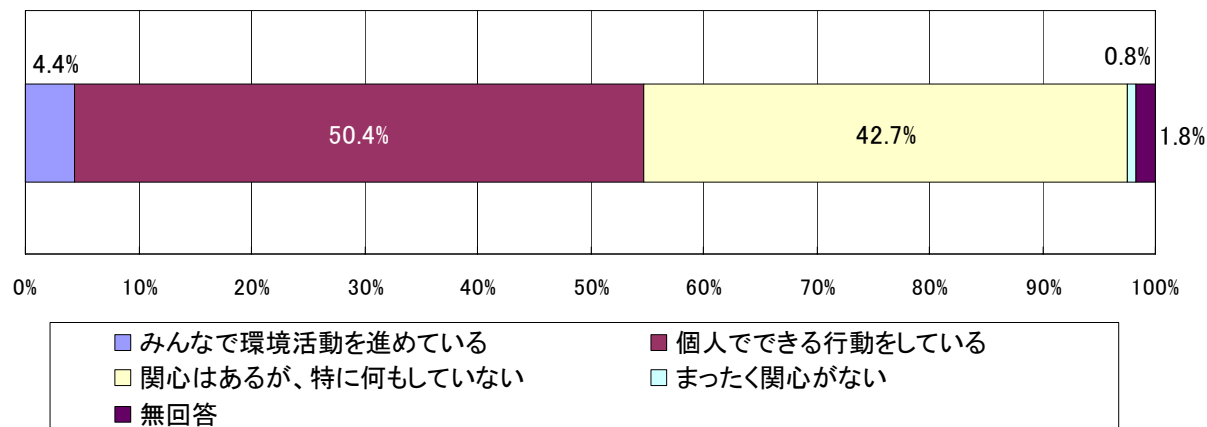
・60歳以上が多いこともあり、「その他」が最も多く、半数を超えている。



環境問題への関心・行動

(3) 環境問題に関する関心や行動について伺います。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

- ・「まったく関心がない」は1%弱で、約98%の人が環境問題について「関心」がある。
- ・半数を超える人（約55%）が関心を持つだけでなく、何らかの行動をしている。



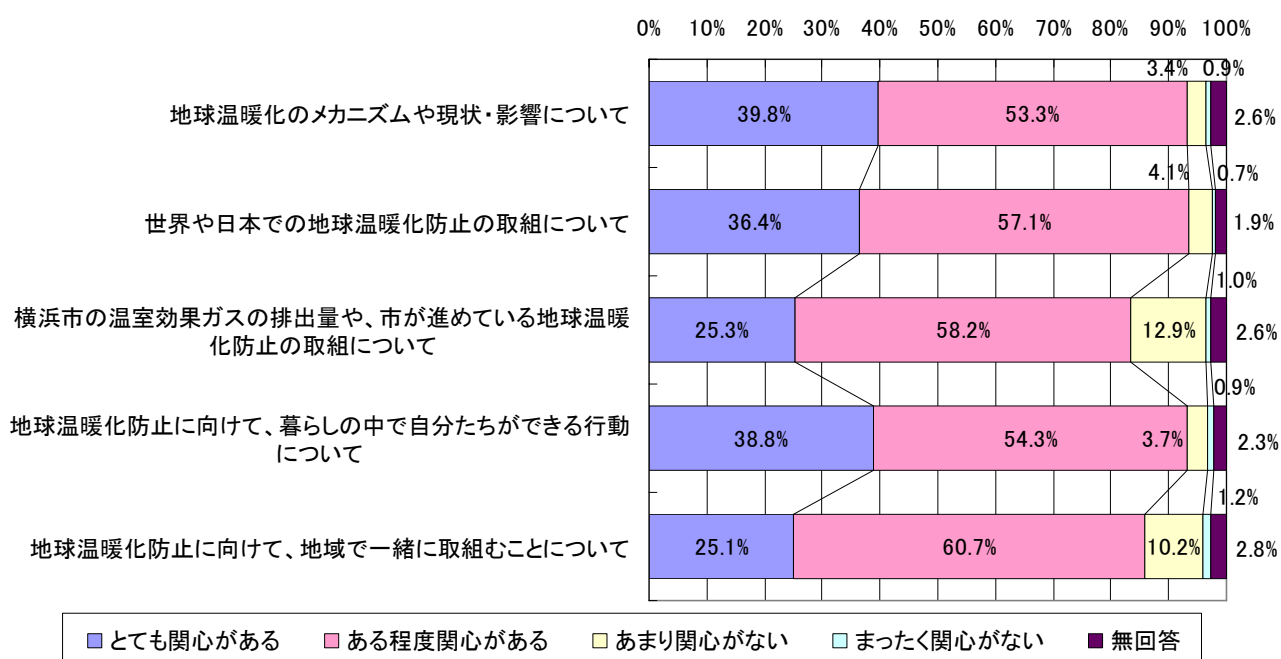
3つの重点行動についての関心・行動

重点行動1 360万人の地球温暖化防止の行動

(4) あなたは、地球温暖化についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

- ・3つの重点行動の中で関心度^{注1)}は最も高い（平均：約90%。ごみ平均：約86%、水・緑平均：80%）。特に「暮らしの中で自分たちができる行動について」への関心が高い(93.1%)。

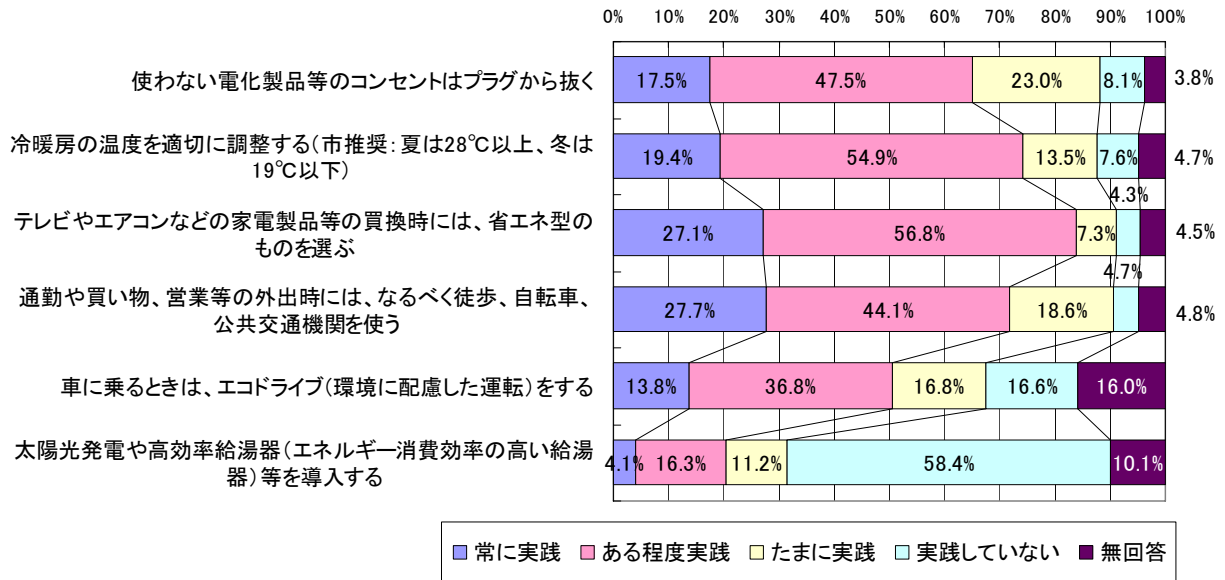
注1) 「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合を「関心度」とする。(以下、すべて同様)



(5)地球温暖化防止について、あなたはどのように取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

・行動実践度^{注2)}が最も高いのは、「家電製品等の買換時には、省エネ型のものを選ぶ」(約84%)であるが、設問項目により取り組み状況に差がみられる。

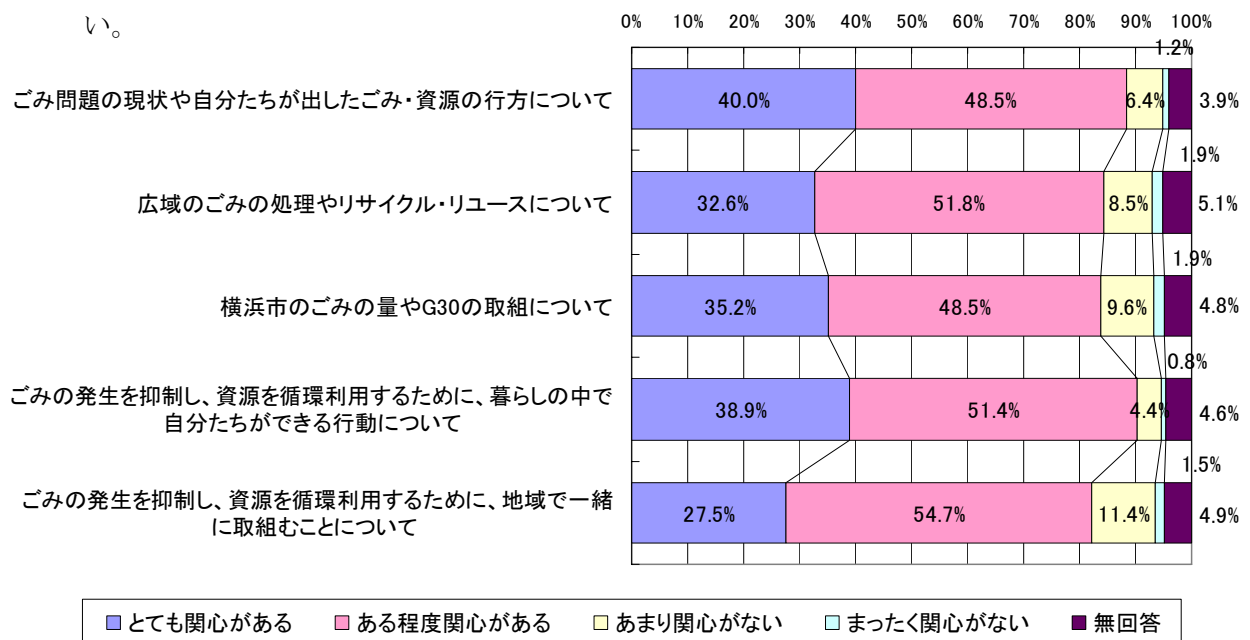
注2)「常に実施」と「ある程度実施」を合わせた割合を「行動実践度」とする。(以下、すべて同様)



重点行動2 ごみにしない3つのR行動

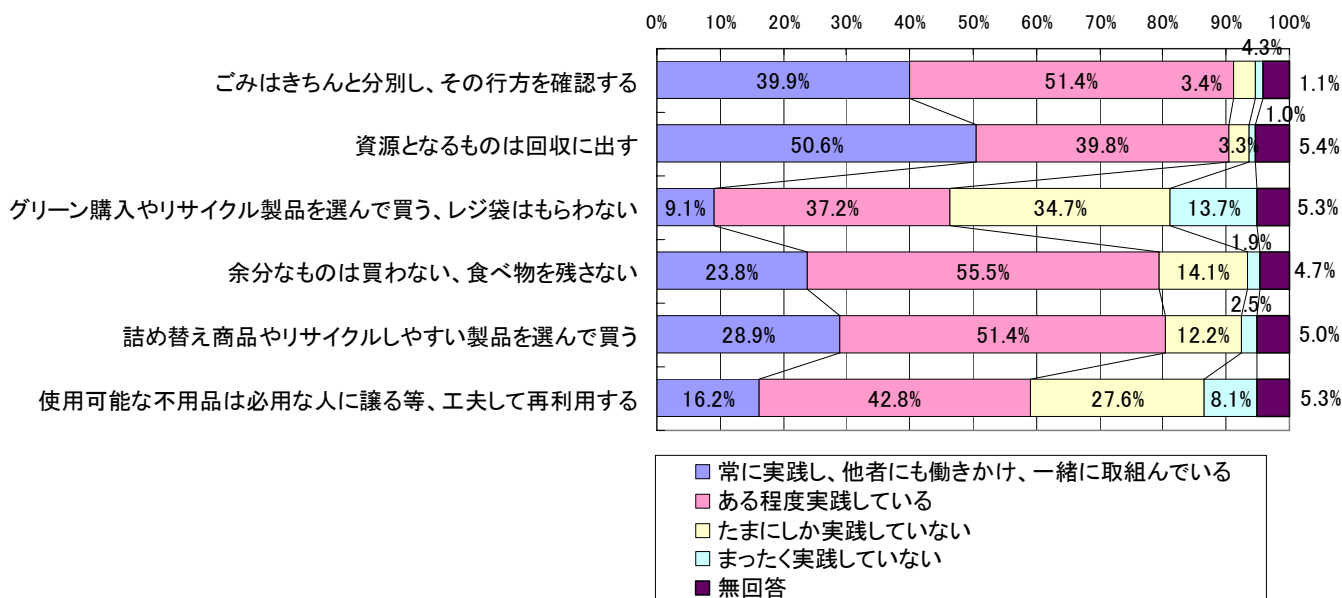
(6)あなたは、ごみやリサイクルについてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

・3つの重点行動の中で、「とても関心がある」の割合が最も高い(平均約35%)。特に、「ごみ問題の現状や自分たちが出したごみ・資源の行方について」(約89%)や「暮らしの中で自分たちができる行動について」(約90%)など、日常生活に直接関係がある項目が高い。



(7) ごみやリサイクルについてあなたはどのように取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

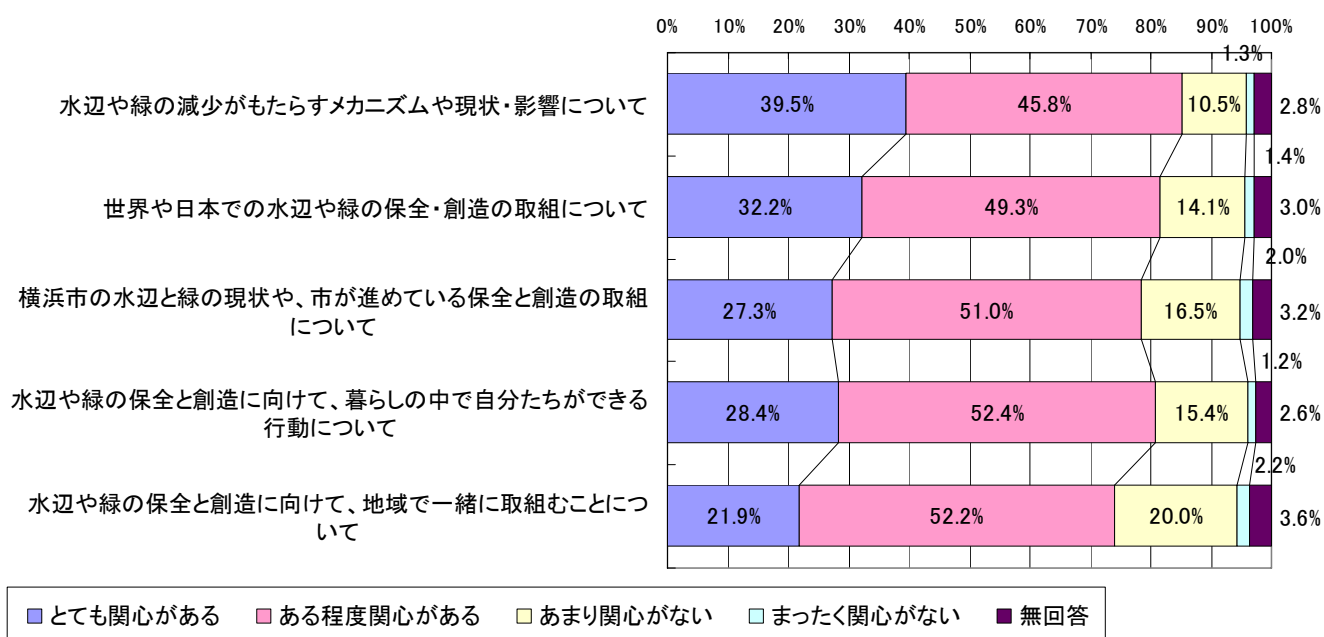
- ・行動実践度が最も高いのは、「ごみはきちんと分別し、その行方を確認する」(約91%)である。
- ・「資源となるものは回収に出す」は「常に実践している」(約51%)と特出している。



重点行動3 水と緑をつなぐ環境保全行動

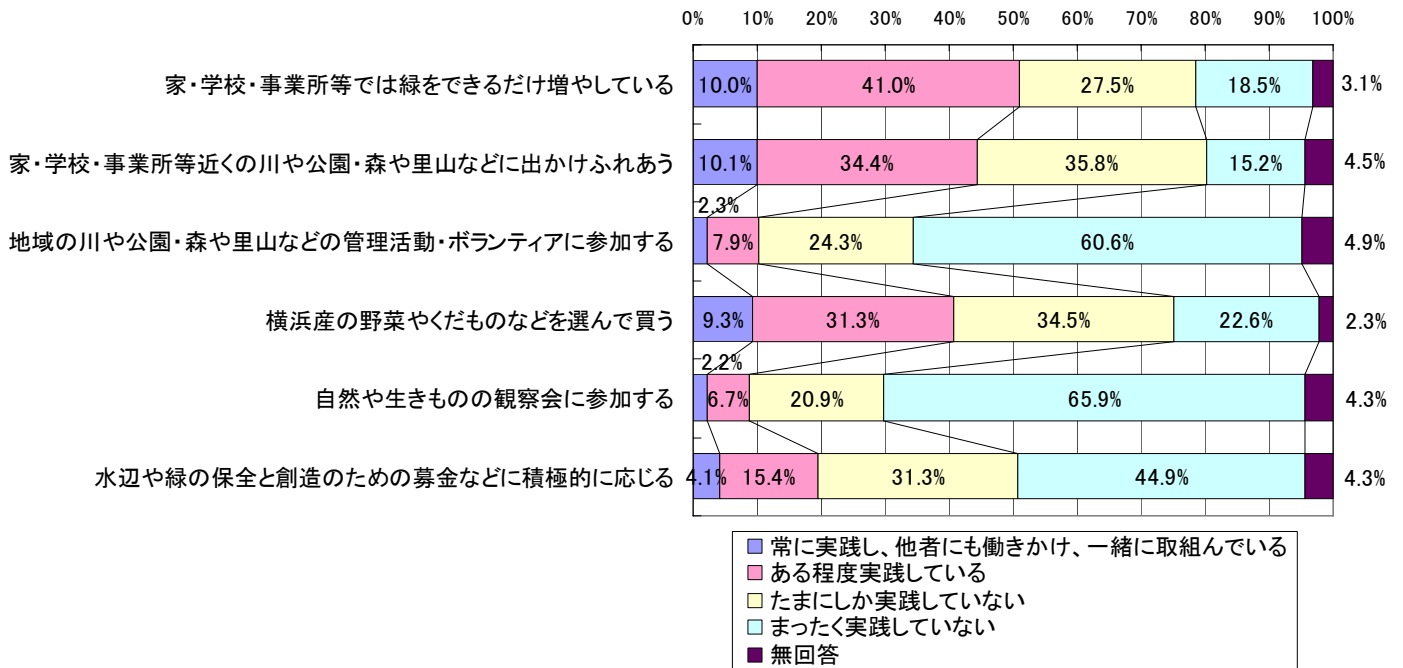
(8) あなたは、水辺や緑の保全についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・3つの重点行動の中で関心度が最も低い(平均:約80% 温暖化平均:約90%、ごみ平均:約86%)。



(9) 水辺や緑の保全についてあなたはどのように取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

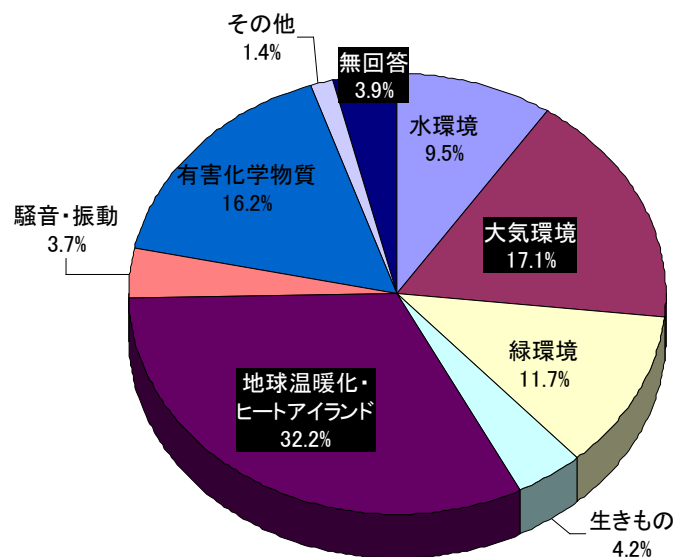
・関心度と同じく、行動実践度も3つの重点行動の中で最も低く（平均：約29% 温暖化平均：約61%、ごみ平均：約74%）、「常に実践」している人は、すべての設問項目で10%台かそれを下回っている。



横浜市の環境教育関連施策について

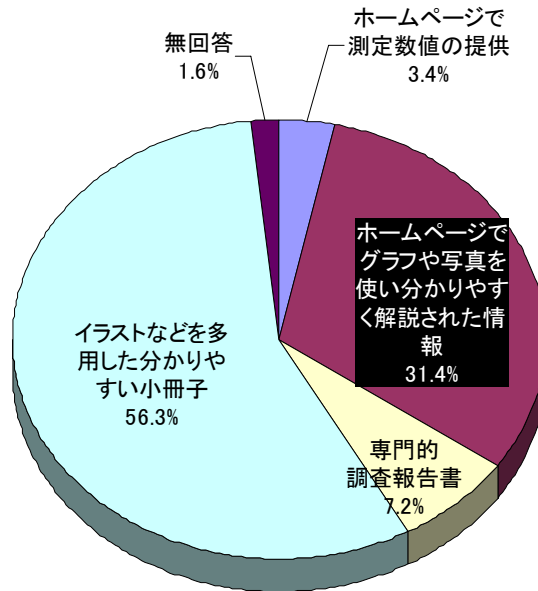
(10) 環境に関する情報について、あなたがほしいと思う情報はなんですか？

・必要とされている環境情報としては、「地球温暖化・ヒートアイランド」（約32%）の割合が最も高い。



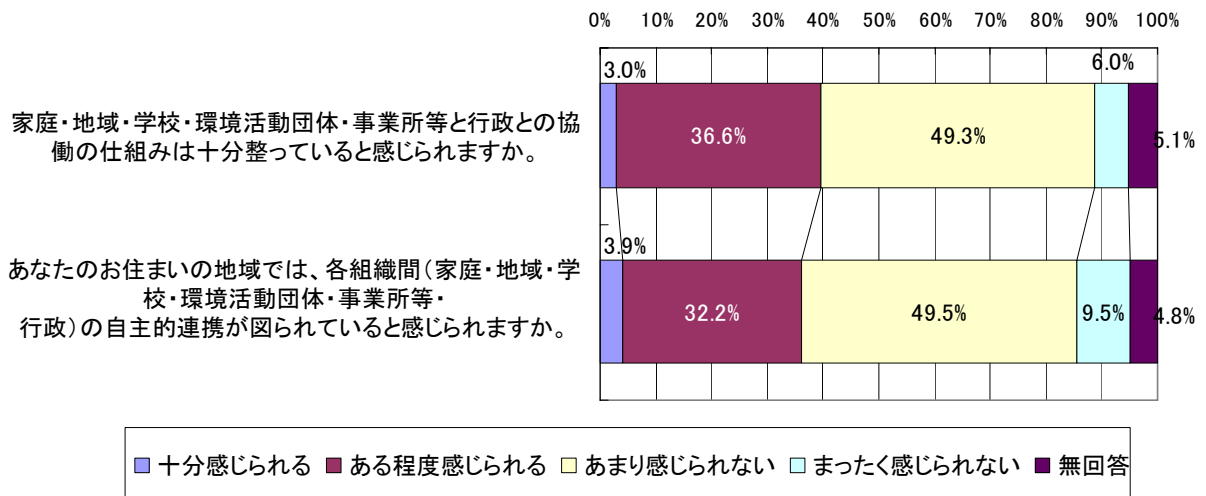
(11) あなたはどのような方法での情報提供を期待されますか？

・報告書や測定数値の提供より、視覚的に分かりやすいかたちでの提供が期待され、インターネット（ホームページ：約35%）よりも、紙媒体（約66%）が望まれている。



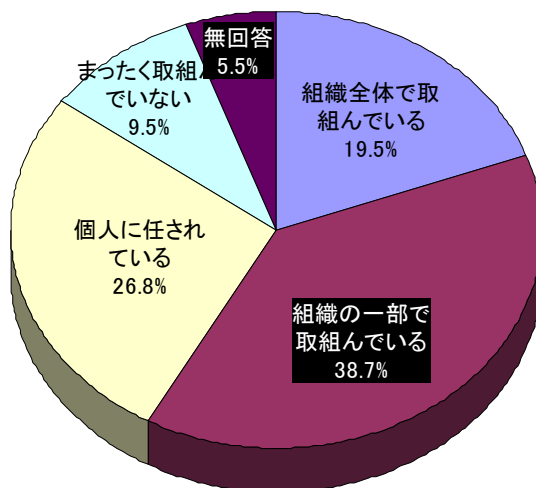
(12) 環境課題を解決するための横浜市の仕組みや施策についてお伺いします。最も近いものを1つ選んでをつけてください。

・「各主体と行政との協働の仕組み」や「各組織間の自主的な連携」とも「あまり感じられない」と「まったく感じられない」の合計が半数を超えている。



(13)あなたが属している組織（家庭・地域・学校・環境活動団体・会社等・行政）では環境問題にどのように取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

- ・組織の中での環境問題に対する取組は、組織の一部あるいは個人で取り組んでいる割合が高い(約70%)。

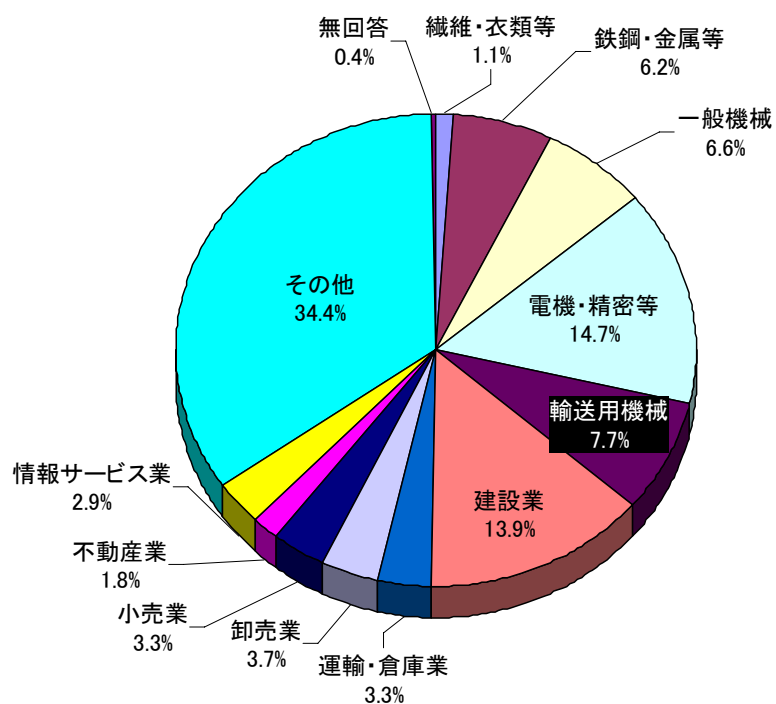


2) 事業者

回答者の属性

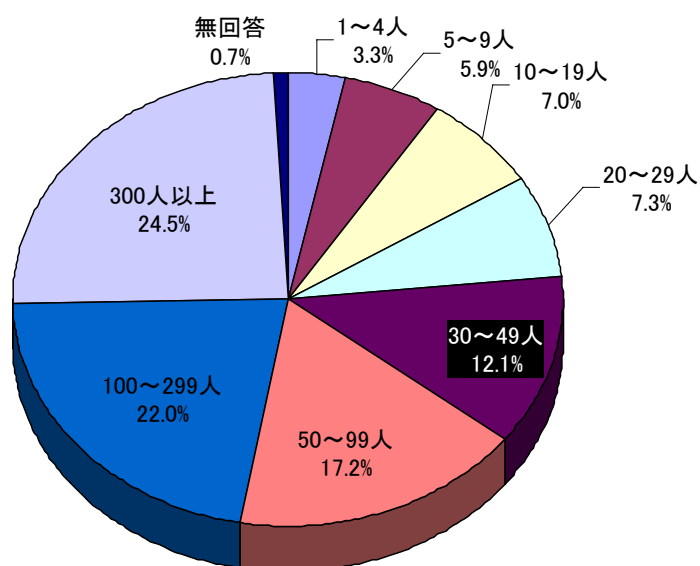
(1) 貴社の業種は？

- ・業種は、製造業が最も多く約 36%、中でも「電機・精密機」（約 15%）が多い。次いで、「建設業」（約 14%）が多く、第二次産業が半数を占める。



(2) 貴社の従業員数は？

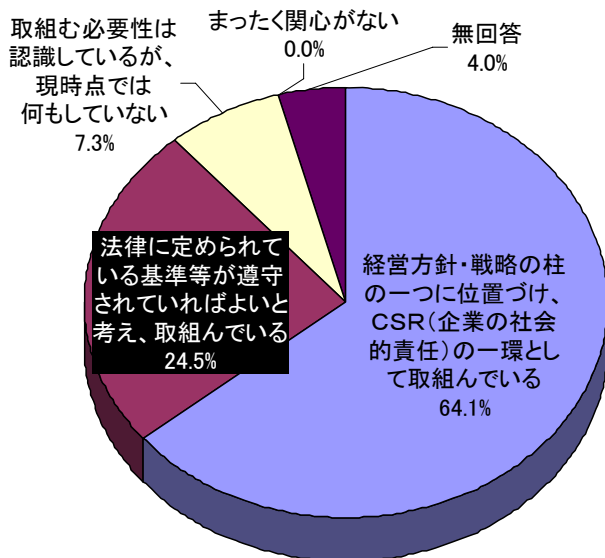
- ・従業員数が 100 人以上の会社が半数近く（約 47%）を占めている。



環境への関心・行動

(3) 地域および地球規模の環境問題の、事業者としての取組について、貴社ではどのように位置づけ考えられていますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

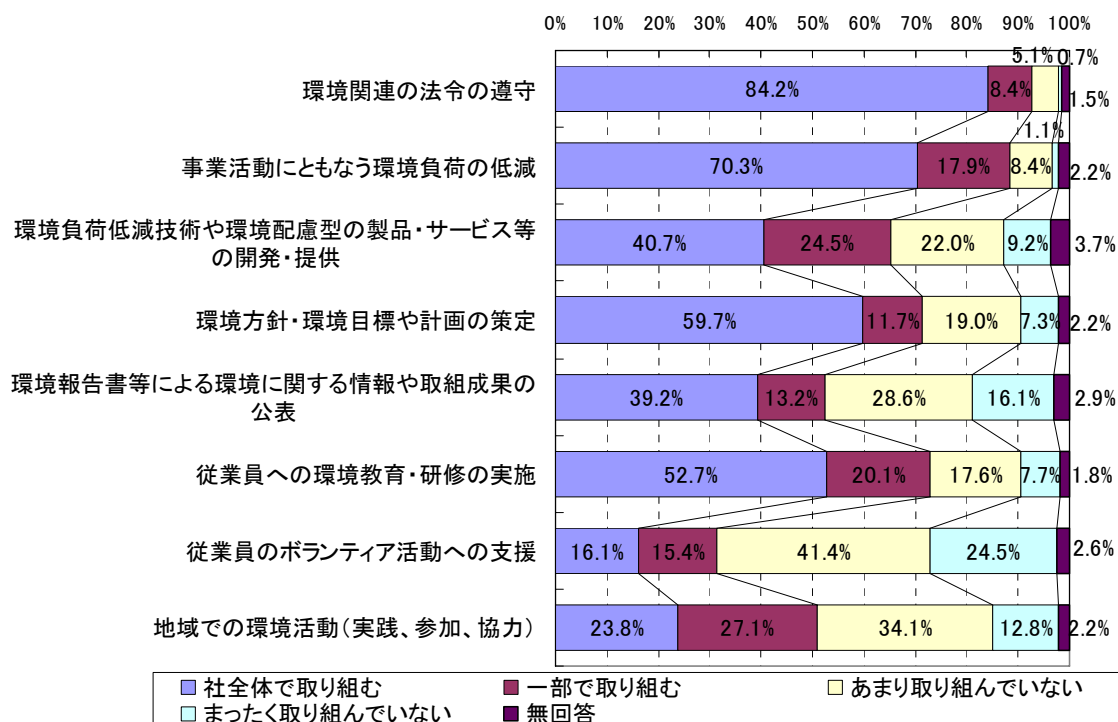
- ・「経営方針・戦略の柱の一つに位置づけ、CSR（企業の社会的責任）の一環としている」事業所が最も多い（約64%）



(4) 貴社では、次の環境配慮活動についてどの程度取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

- ・実践度^{注3)}が高い取組みは「環境法令の遵守」（約92%）、「事業活動の環境負荷の低減」（約88%）で、「社全体で取り組む」割合も高い。

注3) 「社全体で取り組む」と「一部で取り組む」を合わせた割合を「実践度」とする。

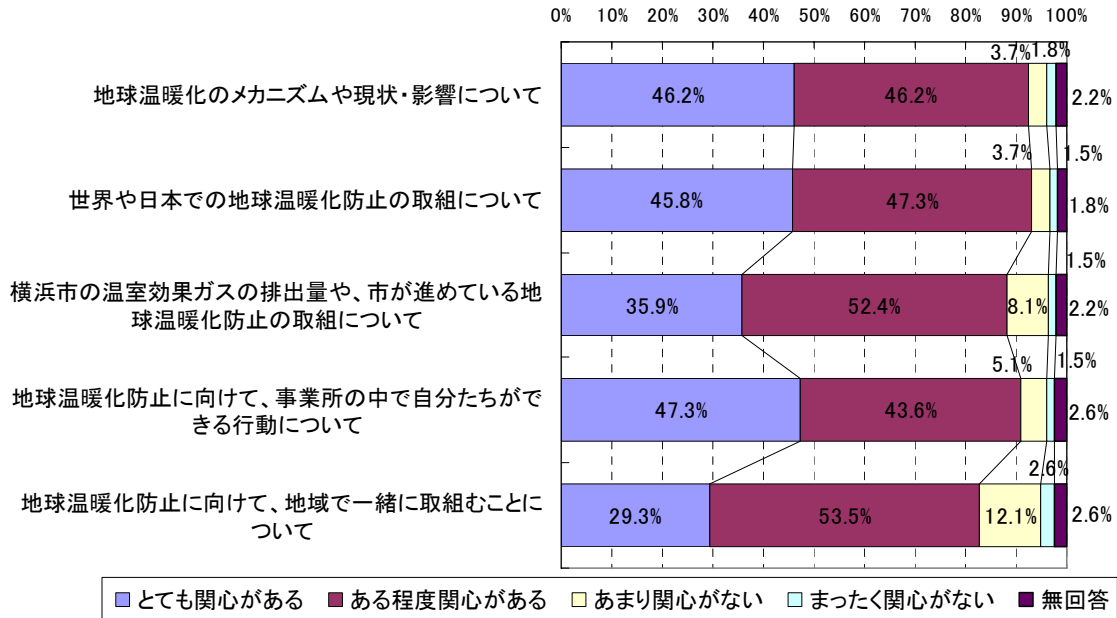


3つの重点行動についての関心・行動

重点行動1 360万人の地球温暖化防止の行動

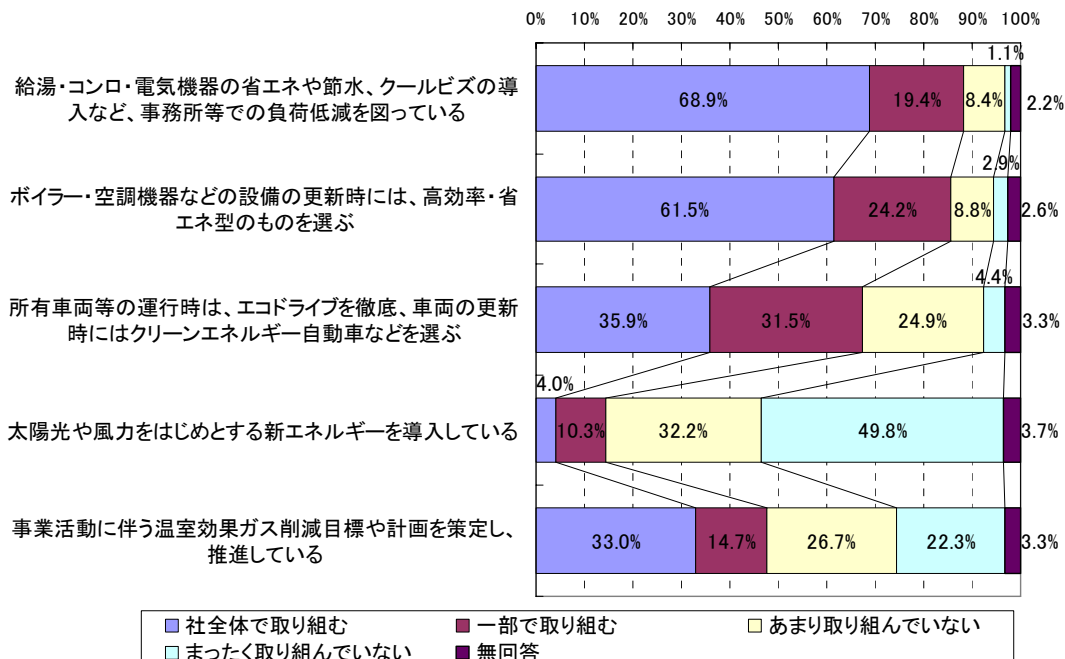
(5) 貴社では、地球温暖化についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・関心度は全体的に高いが（平均：約90%）、「とても関心がある」が最も多いのは「事業所の中で自分たちができる行動について」である。（約47%）



(6) 地球温暖化防止活動について、貴社ではどのように取組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

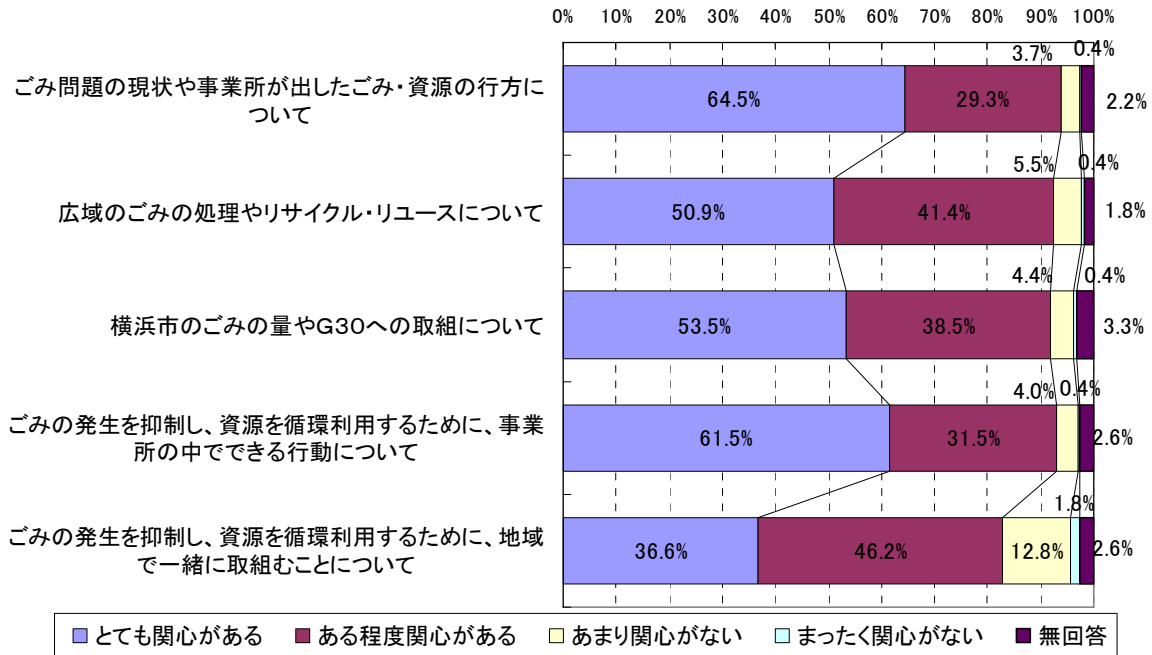
- ・行動実践度が最も高いのは「省エネ・節水、クールビズの導入など、事務所等での負荷低減」（約88%）、「設備更新時には、高効率・省エネ型のものを選ぶ」（約86%）であるが、設問項目により取組みの状況に差がみられる。



重点行動2 ごみにしない3つのR行動

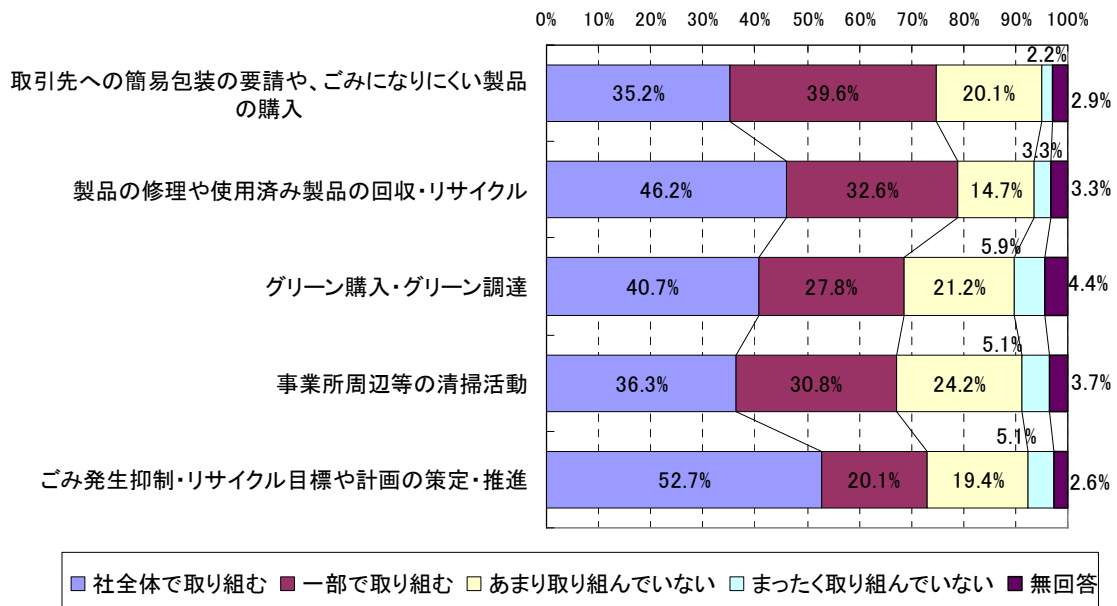
(7) 貴社では、ごみやリサイクルについてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・ 3つの重点行動の中では関心度が最も高く（平均：約91% 温暖化平均：約90%、水・緑平均：約80%）、かつ、「とても関心がある」の割合も高い（平均：約53%）。



(8) ごみやリサイクルについて貴社ではどのように取組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

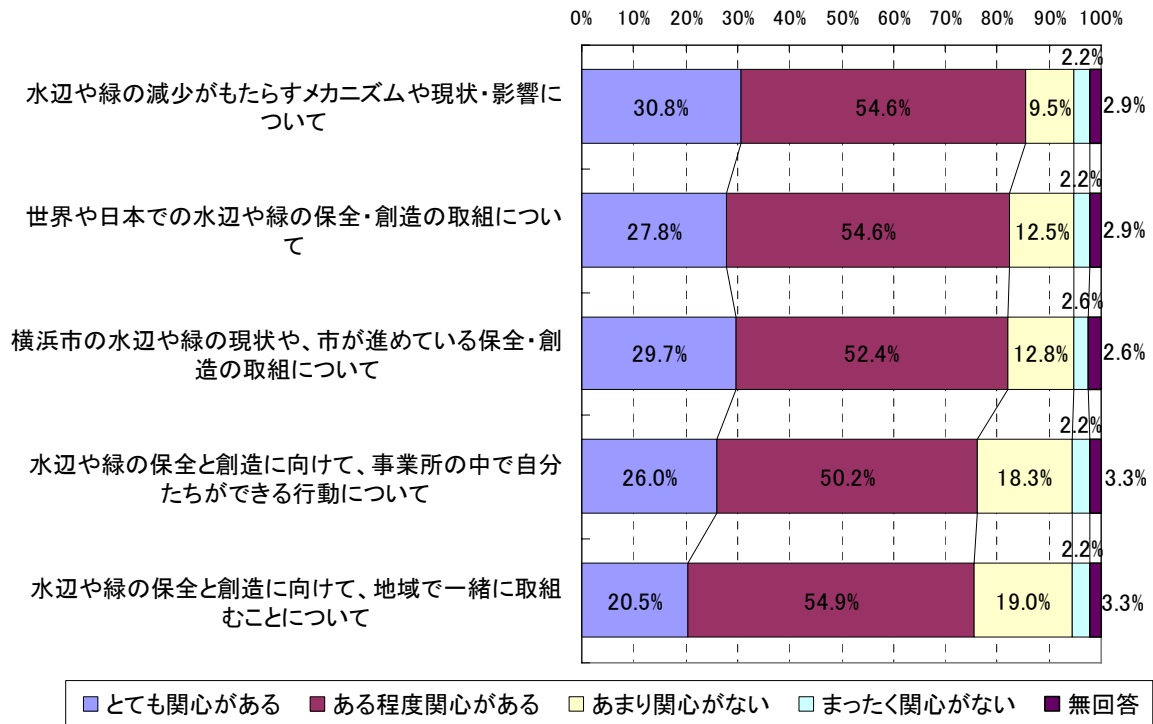
- ・ 行動実践度は、3つの重点行動の中で最も高い（平均：約72%）。特に、半数を超える事業所が「ごみの発生抑制・リサイクル目標や計画の策定」に社全体で取り組んでいる。



重点行動3 水と緑をつなぐ環境保全行動

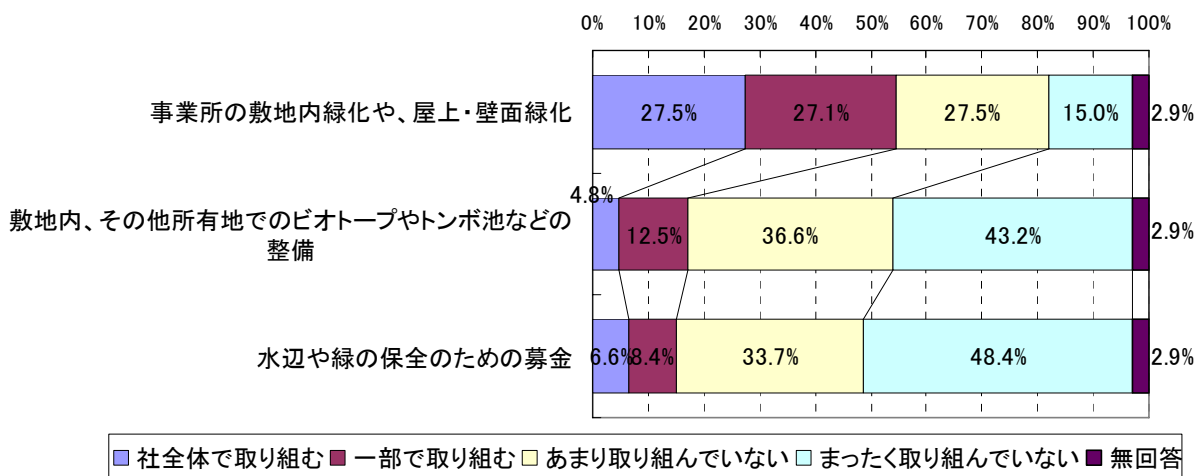
(9) 貴社では、水辺や緑の保全についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・3つの重点行動の中で、関心度が最も低い（平均：約80% 温暖化平均：約90%、ごみ平均：約91%）。



(10) 水辺や緑の保全について貴社ではどのように取組んでいますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・「事業所の敷地内緑化や屋上・壁面緑化」について50%程度が取り組んでいる。

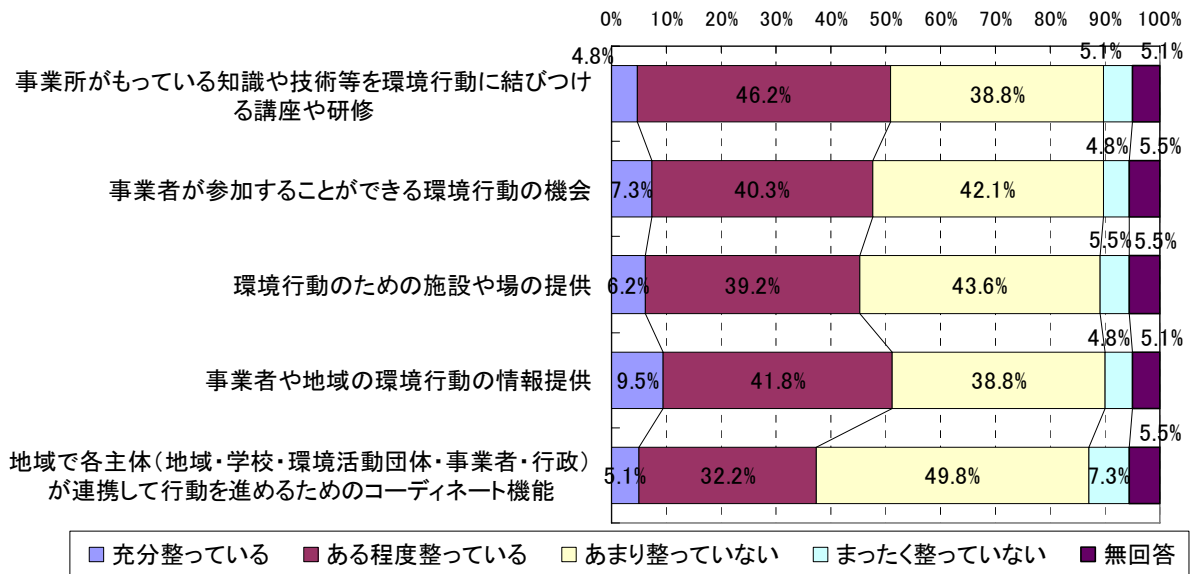


横浜市の環境教育関連施策について

(11) 事業者が環境に配慮した事業活動を行ったり、地域で環境行動を実施するために、横浜市の制度や施策は、十分整っていると感じられますか。最も近いものを1つ選んでつけてください。

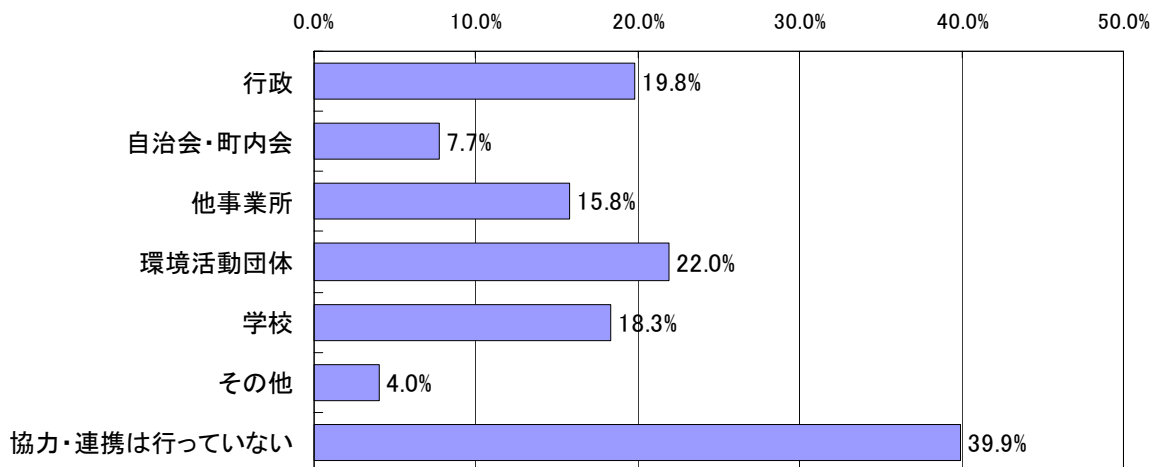
- ・しくみの充実度^{注4)}が半数を超えているのは「事業者や地域の環境行動の情報提供」と「事業所がもっている知識や技術等を環境行動に結びつける」(いずれも約51%)である。

注4)「十分整っている」と「ある程度整っている」の割合を「充実度」とする。



(12) 地域や市域の環境課題に対し、他の主体と連携して取り組んだことがあった場合、その相手先はどこですか。該当するもの全てにをつけてください。(複数回答)

- ・連携の相手先として最も多かったのは「環境活動団体」(約22%)で、約40%の事業所が「協力・連携は行っていない」と回答している。

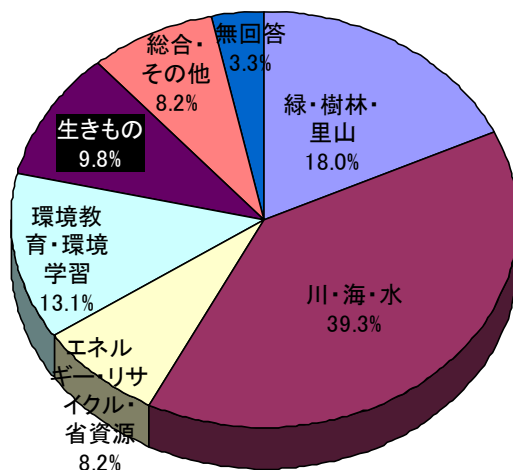


3) 市民活動団体

活動団体の属性

(1) 活動ジャンルは？

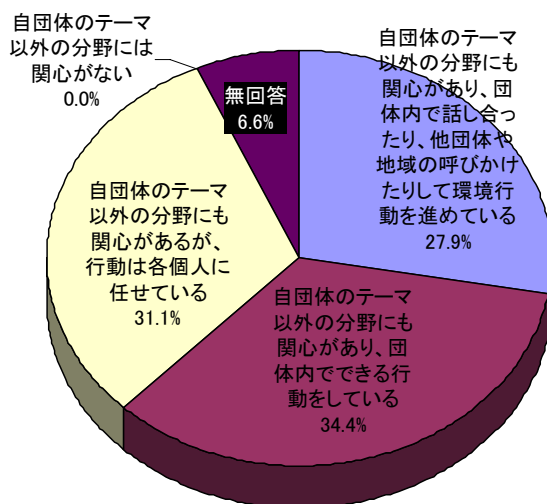
- ・活動ジャンルとしては、川・海・水に関する活動が最も多く（全体の約40%）、緑・樹林・里山に関する活動（約18%）の順となっている。



環境問題への関心・行動

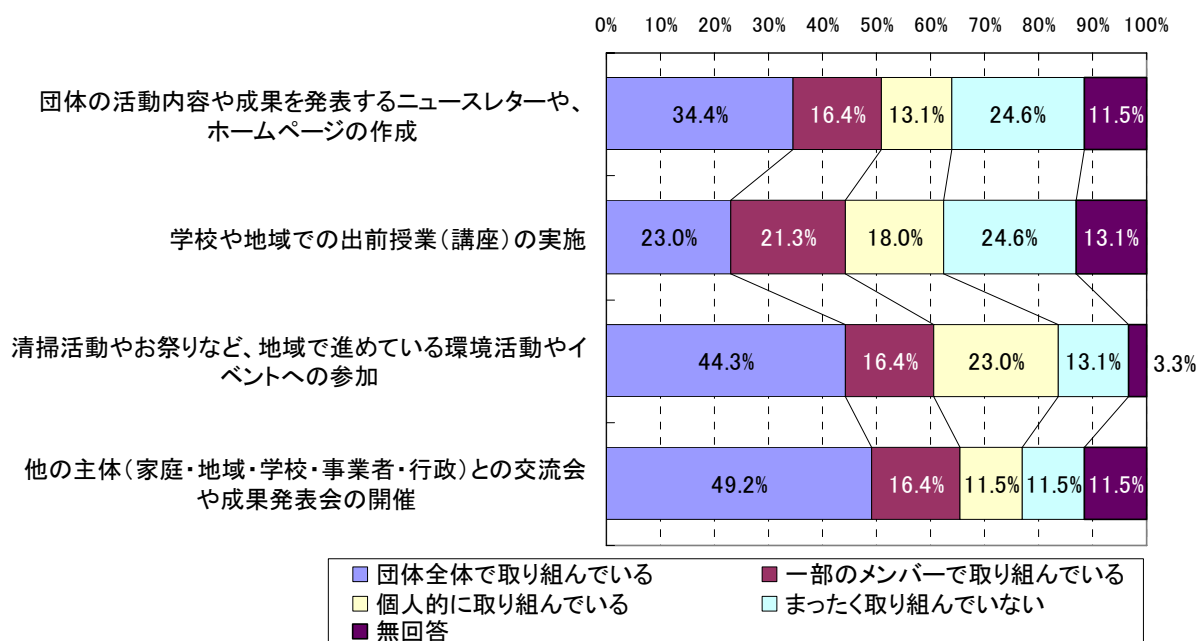
(2) 環境問題全般に関する関心や行動について伺います。あなたの団体で最も近いものを1つ選んでつけてください。

- ・回答のあった団体はすべて、活動分野以外のテーマについて関心をもっている（約93%）。



(3)貴団体では、次の環境活動についてどの程度取り組んでいますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

・「他の主体との交流会や成果発表会の開催」に取り組んでいる割合が最も高い（約66%）。

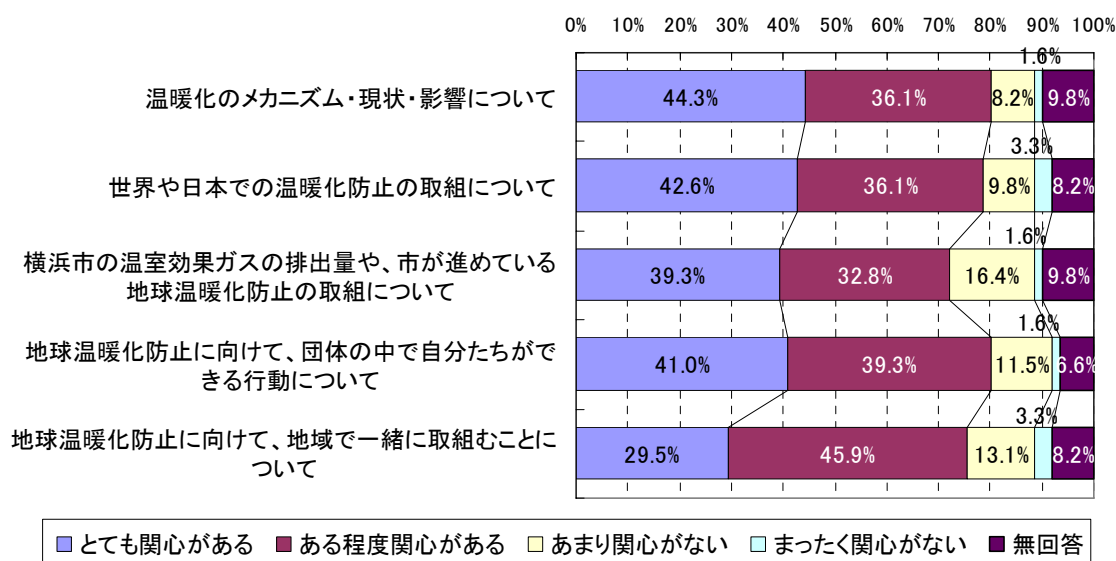


3つの重点行動についての関心・行動

重点行動1 360万人の地球温暖化防止の行動

(4)貴団体では、地球温暖化についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

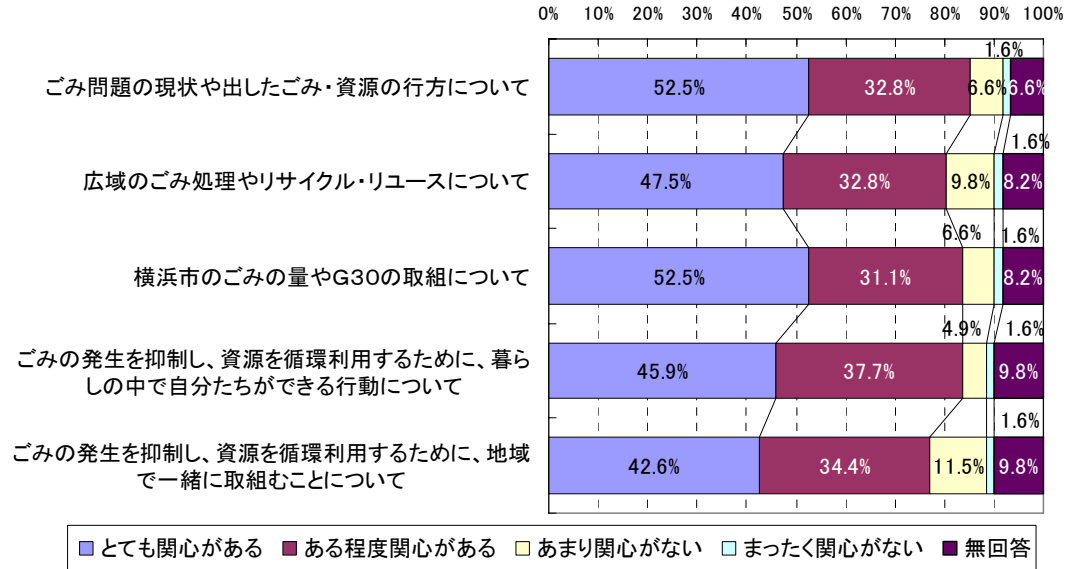
・3つの重点行動の中では最も関心度は低い（平均：約77% ゴミ平均：約82%、水と緑平均：約86%）。



重点行動2 ごみにしない3つのR行動

(5) 貴団体では、ごみやりサイクルについてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

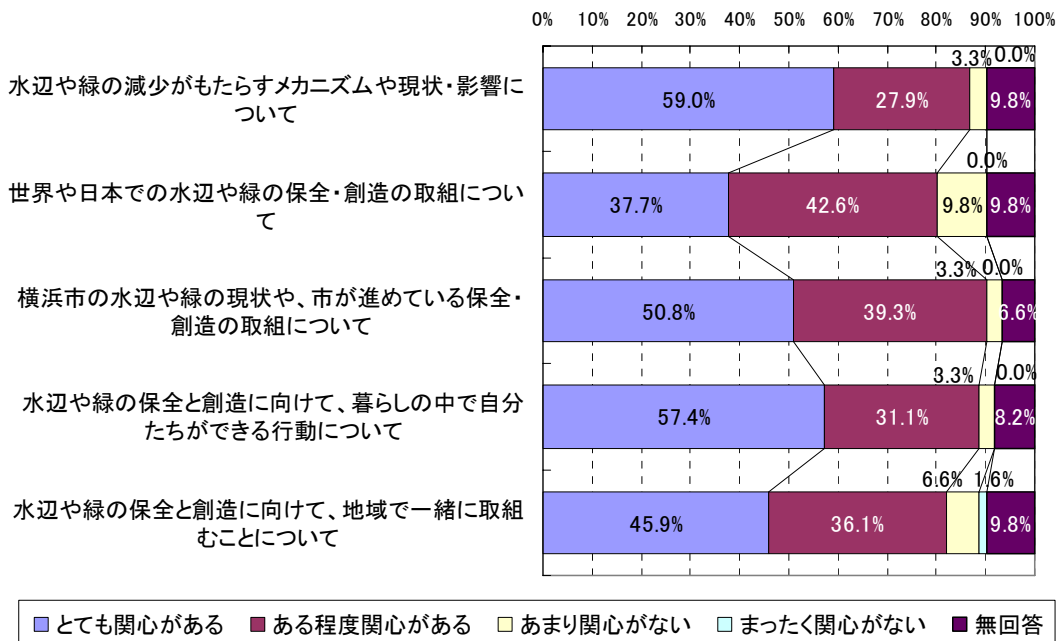
- 全項目で「とても関心がある」との回答が最も多い。「ごみ問題の現状や出したごみ・資源の行方について」への関心度が最も高い（約85%）。



重点行動3 水と緑をつなぐ環境保全行動

(6) 貴団体では、水辺や緑の保全についてどの程度関心がありますか。最も近いものを1つ選んで をつけてください。

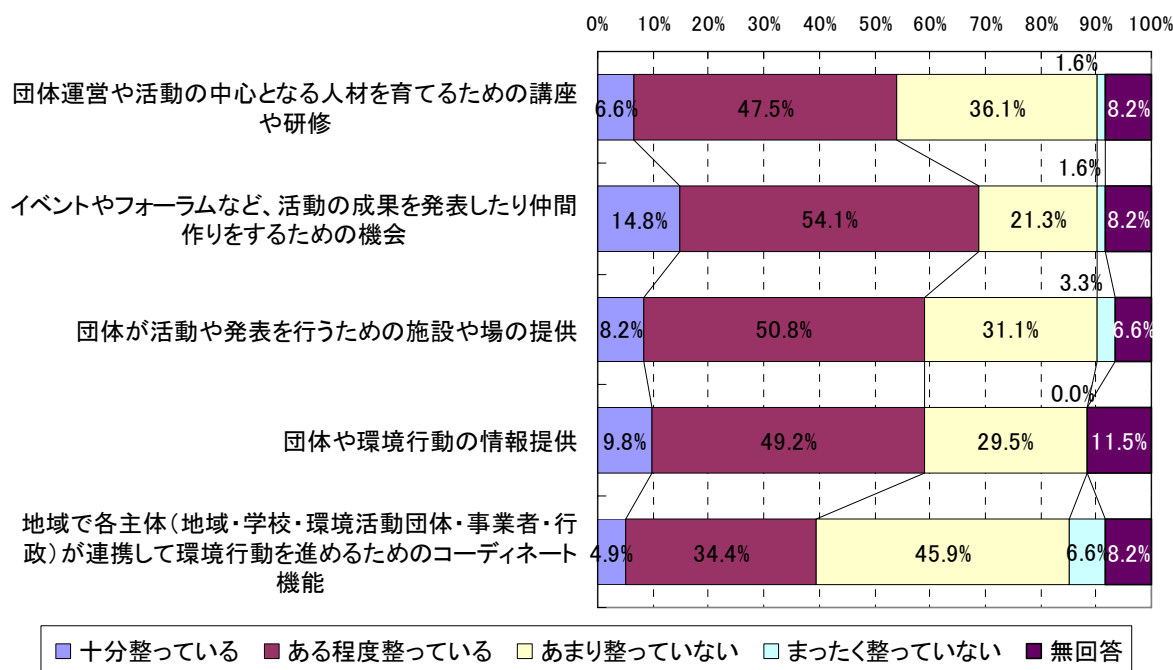
- 3つの重点行動の中で関心度が最も高い（平均：約86%）。特に「横浜市の水辺や緑の現状や、市が進めている保全・創造の取組について」は約90%と最も高い。



横浜市の環境教育関連施策について

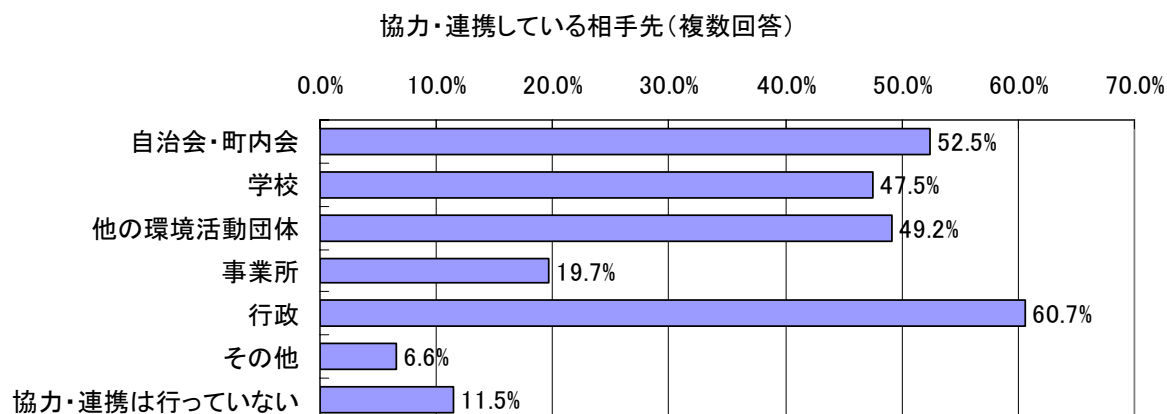
(7) 活動団体が環境行動を行っていくために、横浜市の取組みや施策は十分整っていると感じられますか。

- ・しくみの充実度の評価が最も高いのは「イベントやフォーラムなど、活動の成果を発表したり仲間作りをするための機会」(約69%)である。一方、「地域で各主体が連携して環境行動を進めるためのコーディネート機能」の評価は低い(約39%)。



(8) 地域や市域の環境課題に対し、他の主体と連携・協力しながら取組んだことがあった場合、その相手先はどこですか。該当するもの全てに をつけてください。

- ・連携の相手先としては行政が最も多く(約61%)、「協力・連携は行っていない」の回答は約12%と少ない。



3. まとめ

1) 各主体別の関心・行動・協働について

市民

- ・約 98%の市民が環境に関心を持っているが、必ずしも行動実践には結びついていない（半数近くの人が関心はあるが特に何もしていない）。
- ・半数を超える人が何らかの行動をしているが、協働による取組を行っている人はごくわずかで、ほとんどの人が個人レベルの行動である。
- ・行動内容としては、しくみが整ったもの（ごみの分別等）の実践度は非常に高い。一方、コストがかかるもの（新エネルギーの導入等）や、集団で行うもの（ボランティアや観察会等）の実践度は低い。
- ・各組織間での自主的な連携については、図られていないと感じている人が半数を超える。

事業者

- ・90%近くの事業者が、環境問題への取組を社全体として行っているが、必要と感じながらも何もしていない事業者が約 7%存在する。
- ・活動内容としては、環境法令の遵守、事業活動にともなう環境負荷の低減、環境方針・環境目標や計画の策定については、半数を超える事業者が社全体で取り組んでいるが、地域での取組など（従業員のボランティア活動支援等）は実践度が低い。
- ・他の主体との連携は、行っていないところが約 40%ある。

市民活動団体

- ・無回答を除くと、すべての団体が、自分の団体の主テーマ以外の分野にも関心を持っており、他の団体と協働している団体も約 28%存在する。
- ・他の主体との交流会や、地域のお祭りやイベントへの参加は、60%を超える団体が実施している。
- ・他の主体との連携は、相手先としては行政、自治会・町内会、他の環境活動団体、学校などが多く、それぞれ概ね 50%以上の団体が行っている。連携していないのは 8 団体（全 61 団体）のみであった。

2) 3つの重点行動について

360万人の温暖化防止行動

- ・市民、事業者の関心度は高い（いずれも 89%以上）。特に「地球温暖化のメカニズムや現状・影響について」や「地球温暖化防止に向けて自分たちができる行動について」への関心が高い。
- ・関心と行動の関係をみると、市民では関心の高さが行動実践には必ずしも結びついていない。また、事業者では、「省エネ型電気機器の導入、クールビズの実践」や「ボイラー・空調機器の高効率・省エネ型への更新」などは、社全体として取り組んでいるところが 60%を超えている。

ごみにしない3つのR行動

- ・ 3つの重点行動の中で市民、事業者、環境活動団体ともに関心度が最も高い。特に事業者では、「とても関心がある」とした割合が高い。
- ・ 関心と行動の関係をみると、関心度と行動実践度がともに高い。特に事業者では、全ての項目について概ね70%前後で何らかの取り組みを行っている。

水と緑をつなぐ環境保全行動

- ・ 3つの重点行動の中で市民、事業者の関心度、行動実践度は最も低い。
- ・ 環境活動団体は、団体自身の活動テーマと一致したところが多かったこともあり、関心度は高く、「とても関心がある」割合も非常に高い。特に「市が進める保全・創造の取組について」の関心度が最も高い（90%）。